



伊丹十三監督作品

お葬式

井上佗助山崎努 明岸部一徳

南宮千鶴子宮本信子 青木津村隆

南宮さく江菅井きん 木村夫人横山道代

南宮正吉大滝秀治 花村夫人西川ひかる

里見財津一郎 キョちゃん海老名美どり

海老原江戸家猫八 正吉の妻双葉弘子

南宮真吉奥村公延 冠婚葬祭の先生関弘子

綾子友里千賀子 岩切のおばあさん吉川満子

茂尾藤イサオ 小さい老人藤原釜足

老人田中春男

老人会会長香川良介

黒崎佐野浅夫

奥村関山耕司

榊原左右田一平

海老原の部下1加藤善博

海老原の部下2里木佐甫良

フクちゃん金田明夫

木のほり青年利重剛

会計の女中村まり子

守衛福原秀雄

木村先生津川雅彦

猪ノ瀬小林薫

斉藤良子高瀬春奈

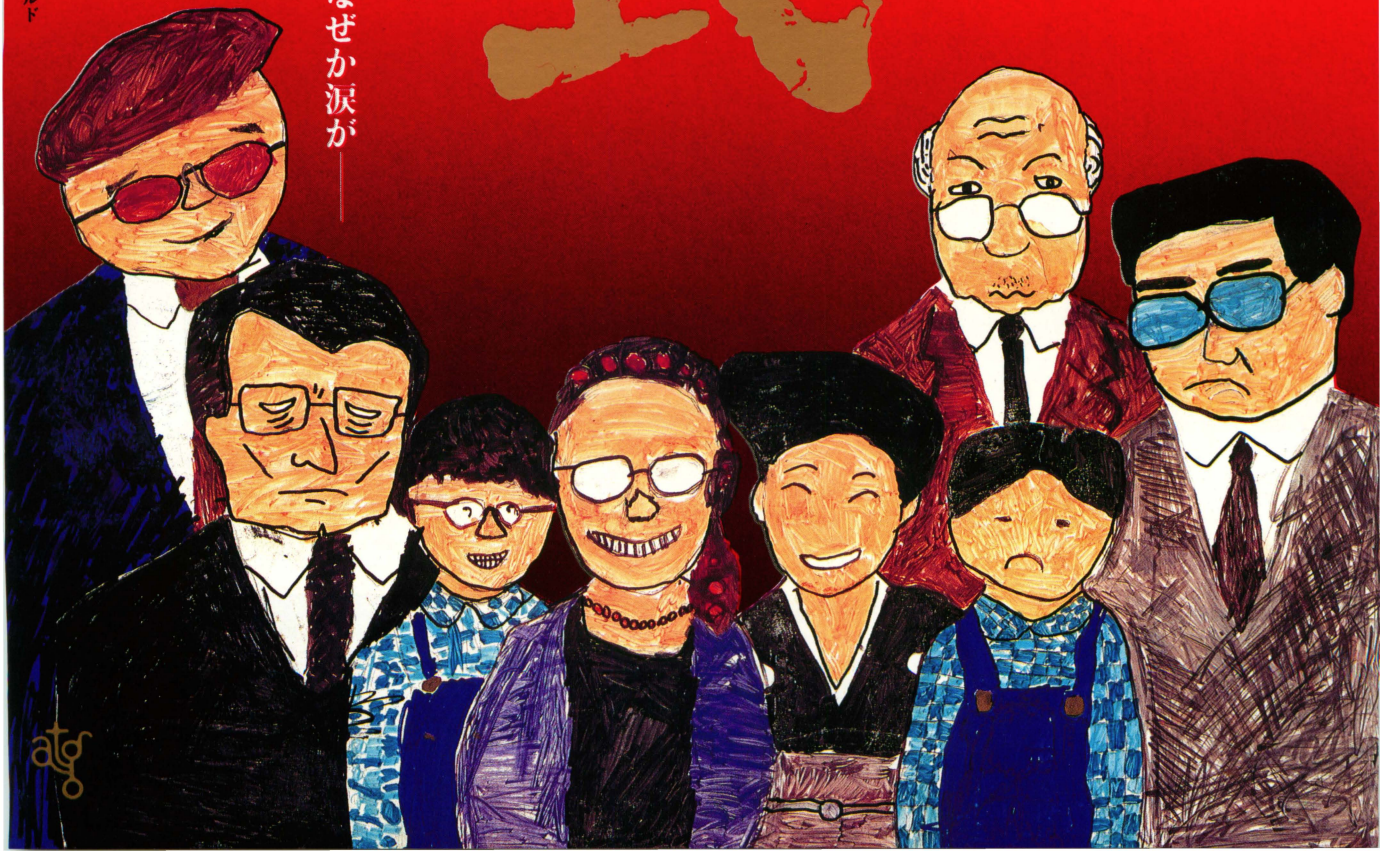
住職笠智衆

カラースタンダードサイズ
2時間4分

笑いながら、あれ、なぜか涙が

製作 玉置泰・岡田裕
プロデューサー 細越省吾
脚本 伊丹十三
撮影 前田米造
照明 加藤松作
録音 信岡実
美術 徳田博
音楽 湯浅譲二
編集 鈴木暁
黑白部分撮影 浅井慎平
キャスティング 笹岡幸三郎
助監督 平山秀幸
製作担当 藤田義則

製作/映ニユ・センチユリ/プロデューサーズ+伊丹プロダクション 配給/映日本アートシアターギルド



atg



「お葬式」 ナイト

映画

1 伊丹十三の第一回監督作品である。2 初め「恫助たちの秋」という題名で書かれたが、製作日程上、初夏の話になったのでこの題名は使えず、なかば自棄気味で「お葬式」と名づけられた。縁起をかつく興行界では、この題名に「の足を踏み見る者も多かったが、映画の仕上がりを見るや、二転して「よい題名だ」との評価に転じた。

3 昨年九月、伊丹夫人、宮本信子の父君が亡くなった。その際葬儀を主宰した伊丹は「これはまるで映画だ」と感じ、わけても火葬場で夫人と並んで煙の出る煙突を見上げた時には小津安二郎の映画の中へ入ってしまった」という感動を覚えたという。

4 脚本は今年の一月に約一週間で書き上げられた。

5 この脚本にいち早く興味を持った伊丹の年来の友人岡田裕(NCPC社長「家族ゲーム」)が製作面での協力を、玉置泰(六タルト常務)が資金面での協力を約し、かくして四月、映画は早くも製作体制に入ったのである。

6 キャスティングは五月一杯かけて慎重に進められた。これは、キャスティングは演出の仕事の半分」という伊丹の信条によるものであり、また、俳優出身の伊丹が「自分の尊敬できる俳優だけ」をキャストイングしたせいでもある。因みに伊丹の父親、伊丹万作の言葉に「百の演技指導も、一つの打つつけの配役にはかなわない」というのがある。

7 最初に決まったのは当然のことながら宮本信子。次に山崎努が「これはチエホフだ」と叫んで参加。大滝秀治、菅井きんも「無条件で出ます」と出演を快諾。キャストイングの中心の四本の柱ができあがった。このあと奥村公延、友里千賀子、横山道代、西川ひかる、それに、八十八歳の香川良介を筆頭に吉川満子、田中春男、藤原釜足などオールスターファンに懐しい顔ぶれも揃い、笠智衆、津川雅彦、小林薫に続いて、難航したマネージャー役に財津一郎、葬儀屋に江戸家猫八が加り、最後に高瀬春奈が決定して、映画は六月二日、湯

河原にある伊丹邸を舞台にクラック・インしたのである。

8 監督が新人であるため、スタッフはベテランが選ばれた。カメラの前田実造(「家族ゲーム」メインテーマ)を中心に、照明・加藤松作、録音・信岡実、美術・徳田博らが集結。そして編集には日本フィルムエディター界の一方の雄である鈴木暁(「南極物語」)「愛情物語」)それに、音楽には現代の日本を代表する作曲家の一人である湯浅譲二(「悪霊島」)が加つて、いかにも「大人の鑑賞に耐える」映画らしい、質の高いスタッフになった。なお映画の中のモノクローム部分の撮影は、写真家の浅井慎平が担当している。

9 伊丹監督のクラック・インの弁。「私の目的はただ二つ。映画らしい映画を作りたい、ただそれだけです。この作品の中では、葬式というふるさとの儀式の中に突然投げこまれた都会人たちの滑稽にして悲惨な混乱ぶりを涙と笑いのうちに描きたい。幸い脚本は評判よく、また最高のキャストイング、最高のスタッフ編成ができただので監督としてはみんなの仕事ぶりをただ眺めていればよいのではないか」

10 この言葉とは裏腹に、伊丹の演出は想像力ゆたかに、かつ厳密をきわめ、実数三千五百日の撮影期間をスタッフ、キャストを引っ張って、火の玉の如く燃え続けたのである。

11 この映画は、突然肉親の死に見舞われた俳優夫婦が、慌てふためきながらも、人々の助けを借りて、なんとか無事お葬式を出し終る

までの厳肅にして出鱈目な三日間を描いたものであるから格別「あらずし」のようなものは必要あるまい。以下、試写室で拾った声をストーリー順に並べて「あらずし」に替えよう。

● 死を予期した老人がテラスへ向かう。死んで孤独なんだなあと思つた。(大学生21才)

● 宮本信子さんの千鶴子が父の死を知らされるところ、人生の残酷さがよく出ていた(書店店員24才)

● 千鶴子が巨大な芸者になつて出てくるけど、どういうトリックなのだろうか(中学生13才)

● 恫助一家が車で伊豆へ向かうシーン。日本映画が遂に到達した、最も美しく出鱈目なカーチエス(ホルノ)映画監督28才)

● 商売柄映画の中の死体には興味を持つていますが、奥村公延氏の死体は本当に死んでいるみただった。日本映画史に残る死体です(葬儀社経営63才)

● お棺が階段を運び上げられるところはヒッチコックみたいだった。俺なら棺が落ちて死体が転がり出し、それをちよとど走ってきた車が轢くというふうにするね(タモリ、テレビタレント39才)

● 猫八さんの眼鏡が面白かった(イワキ眼鏡店勤務38才)

● 冠婚葬祭入門のVTRが出てくるが、挨拶の仕方がよくわかり勉強になった。若い人に見てもらいたい映画だ(会社社長68才)

● モノクロ、サイレントの部分、バツハのアリアが美しく泣いた。全部これで作ってほしかった(コピーライター23才)

● 高瀬春奈のバンテイにびつくりした(スタイリスト21才)

● 高瀬春奈のお尻にびつくりした(小学生7才)

● それにしても山崎努はなんてうまいんだろう(小田急沿線主婦51才)

● 財津さんが痺れてひっくりかえるところが面白かった(巨人ファン34才)

● 棺に釘を打つところでは映画館中がシーンとなった、凄いシーンだ(高校生17才)

● 霊柩車って美しいのね(女子大生20才)

● 霊柩車がぐいぐいと迫ってくるところは悪魔的だ(桐生市在住浪人21才)

● お棺がかまどに入つてゆくと、ろろが凄と思ったラリーカメラマン27才)

● ドカんとガスがつくところが凄と思った(ガス嫌いの主婦33才)

● 菅井きんさんが長い挨拶をするシーン、感動で全身に鳥肌が立つた(大滝秀治・俳優59才)

● すべてを許して恫助を見上げる千鶴子のアップが素晴らしい。宮本信子は菩薩だ(シナリオライター59才)

● こんな映画の作り方もあるんですねえ、ショックでした(映画評論家68才)

12 では最後に伊丹監督からのメッセージ「おもしろい御馳走のような映画を作りました。みなさん、温いうちにどうぞ」

13 ではまた映画館で会いましょう。バイバイ。

11月17日(土)より
ロードショー

特別鑑賞券 一般¥1200 学生¥1100
好評発売中! (当日一般¥1500 学生¥1300)

国電有楽町駅中央銀座側 (201) 3066
有楽シネマ

ハチ公口道玄坂109前 (461) 4902
渋谷文化

連日 11:00 1:30 4:00 6:30

東口伊勢丹男の新館隣 (352) 1846
テアトル新宿

南口西武スポーツ館前 (987) 4311
テアトル池袋

北口近鉄デパートさき 0422 (21) 7662
テアトル吉祥寺

平日	11:45	2:10	4:35	7:00	
日・祝	9:30	11:45	2:10	4:35	7:00